

「三島小中学校の霜月祭り伝承活動の取組」

1 学校名

三島村立三島小中学校

2 学年・人数

小学生・中学生男子（計7人）

3 日時・場所

（1）場所・日時

平成27年12月15日（火）・・・旧暦11月15日
岳の神神社から熊野神社

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統行事について

（1）名称

霜月祭り（しもつきまつり）

（2）由来

硫黄島の霜月まつりは、14歳以下の男子が岳の神（たけのかみ）神社から岳の神様を村にお供してくる祭りである。子供たちは顔に墨を塗って神の姿に変身する。山で採ったハナシバを持参して御岳神社で、お祓いを受けてから列を成して村里に下りてくる。

（3）構成等

岳の神神社から村まで一列になってハナシバをもって歩く。村に着いたら、村の中央部の熊野神社で柴を地面にはたく。これによって山の神を村にお供してきたことになるという。

この行為には山岳信仰が窺える。柴には山の神がついていると考えられている。依り代である。夏に行われる八朔の日に面が柴で村人を叩く行為は、柴の霊力によって災厄を払っているのだという。

5 保存会や地域との連携の具体

この行事は、硫黄島地区会を中心とした取組みになっている。また、硫黄島の人々にとって厄を払うと同時に、季節の節目を感じ、地域が一つになる大切な行事であるという意識が高い。地域社会の一員として児童生徒、保護者、地区民、教職員はこの行事に愛着を持って参加する。地区会は幅広い人々が所属し、先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。子供たちが減少する中、次世代の若者に託す地区会の期待は大きい。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

先輩から後輩へと伝承する霜月祭りは、幼い子供たちから高齢者まで繋がる大切な祭りである。地域の先輩から祭りの由来や作法や唱える文言を教わる。里村に着くと地区民や保護者が笑顔で迎えてくださる。特に高齢者が喜ぶ姿が印象的である。

しかし、児童生徒数は減少の一途をたどる。ふるさとを離れしおかげ留学で硫黄島に学ぶ生徒も霜月祭りの担い手である。夏の八朔太鼓踊りや秋の九月踊り、そしてこの霜月祭りを通して、島は一つになり伝統を支えていく。

7 取組の様子



目の周りを墨で線を描く



岳の神神社から里村まで歩く



硫黄権現で柴をはたく



「よく頑張ったね。ありがとう。」
ご褒美のお菓子が楽しみである。

8 参加児童生徒・保護者・地区会・教職員の感想

参加児童生徒

- ・ 初めて歩いた。神社前にはたくさんの方が待っていてくれてうれしかった。やり終えた後は気持ちがすっきりした。
- ・ 岳の神神社に行く前に目の周りを墨で円を描いてもらった。大輔さんから祭りの由来や唱える言葉を習った。父さんにお母さんにほめられた。

- ・ 島のおじいちゃんやおばあちゃんが「ありがとう。」「よく歩いたね。」と言ってくれた。来年も神様をお供して、みんなを幸せにしてあげたい。

保護者

- ・ 中学生から小さな子まで仲良く島の伝統を守り誇らしかった。
- ・ 去年と比べてみな成長していると立ち居振る舞いから感じた。
- ・ 学校、地域がひとつになって島を盛り上げようと頑張っていることを感じた。

地区

- ・ 中学生から小学生まで立派に神様のお供をした。自分たちの活動に誇りを感じているのが分かった。
- ・ 島民はこの行事を楽しみにしている。みんなが笑顔になった。
- ・ 途絶えないように地区を挙げて頑張っていきたい。

教職員

- ・ 一つの行事の由来や人々の願いを聞くことで島への愛着が深まる。
- ・ 子供一人一人、島民一人一人に役割がある。それが一体感を生む。
- ・ 地域の方々の子供への指導には本当に頭が下がる。
- ・ 子供が元気だと皆が元気になる。